

銀行名	北陸銀行
タイトル	創業支援業務における外部機関との協調体制の取組み強化
取組み内容	【背景・経緯】 当行では、新事業の発掘・育成等を通じて地域経済の活性化を実現するため、平成 28 年 1 月に本部の金融サービス部内に創業支援チームを発足し、創業者のサポートを強化する活動を開始。専属の担当者が、事業計画策定、創業後の販路拡大・人材確保等に関するビジネスマッチング情報の提供や、セミナーの開催などきめ細かなサポートを実施している。 一方で、当行単独での取組みには限界があるとともに、創業者の立場にとっても複数の金融機関の支援が受けられる「協調融資」の活用が望ましいとの考えに立ち、日本政策金融公庫（以下、公庫）との緊密な関係作りを創業支援の基本型と位置付け、各種連携策を積極的に推進している。 【取組み内容】 これまでの主な取組みとして 富山・石川・福井県の公庫各支店および各県の信用保証協会と連携・協力に関する覚書を締結し、創業者の相互紹介による円滑な資金調達の実現や、各種創業セミナーの開催などの協力体制を構築。 行員教育の一環として北陸地区 4 ケ所で公庫の職員を講師に招き、公庫の創業者向け制度融資や、資本性ローンについての勉強会を実施。 創業者の掘り起こしを目的に、平成 28 年 5 月に富山県、7 月に石川県で日本公庫と共催で「ほくぎん創業支援セミナー～創業のチカラ～」を開催（富山、石川会場ともに 33 名参加）。 同様のセミナーを福井県においても 9 月に開催を計画。 公庫と二人三脚で、創業を考えている方や創業間もない方を広くサポートすることで、創業者が安心して相談できる環境作りに努め、創業支援を通じた地域経済の活性化に繋がる活動に引き続き取り組んでいく。 以 上 平成 28 年 5 月 創業支援セミナー ～創業のチカラ～ の風景

創業支援への取組み（北陸銀行）

- ✓ 地域雇用、地域資源の活用へ繋げるため、創業支援体制の構築に取組み、創業者への総合的なサポートを行ってまいります。

体制整備

「創業支援チーム」の発足

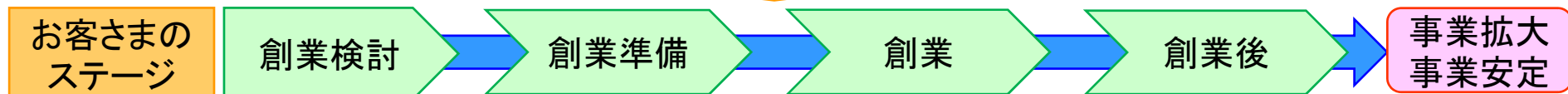
平成28年1月に創業者へのサポート体制強化を目的として「創業支援チーム」を発足しました。
専属の担当者が、事業計画の策定、創業後の販路拡大・人材確保に関するビジネスマッチング情報の提供や、セミナーの開催など、きめ細かなサポートを行います。

外部連携

日本政策金融公庫・信用保証協会との連携

富山・石川・福井県の日本政策金融公庫各支店および各県の信用保証協会と連携・協力に関する覚書を締結しました。
本連携により、創業者の相互紹介による円滑な資金調達の実現や、各種創業セミナーの開催などを協力し合うことで、創業者へのサポートを充実させてまいります。

総合的なサポートを実施



意欲醸成

「ほくぎん女性起業支援セミナー」の開催

平成27年12月に女性起業家や起業を検討されている女性を対象に、新ビジネス事業化支援としてセミナーを開催し、約60名に参加いただきました。セミナーでは女性起業家による体験談のほか、融資制度や関連施策の説明が行われ、活発な意見交換が行われました。

また、平成28年5月にも「ほくぎん創業支援セミナー」～創業のチカラ～の開催しており、継続的な情報発信に努めてまいります。



セミナーの様子（平成27年12月）

ツール整備

創業者向け商品・サービスの提供

- 融資商品の発売（平成28年3月）
「ほくぎん創業支援ローン」
…日本政策金融公庫や信用保証協会と連携も可能な資金
「ほくぎんオーナーズローン」
…インターネットで24時間365日お申し込み可能な資金
- 「創業計画書策定の手引き」の発刊（平成28年3月）
- 北陸三県では初の試みとなる専用ホームページ1年間無料サービス（平成28年6月）
- 創業時の口座開設者を対象としたインターネットバンキング6ヶ月間無料サービス（平成28年1月）



銀行名	北陸銀行
タイトル	後継者不在企業へのM & A 支援の事例
取組み内容	【背景・経緯】 < 譲渡企業の概要 > ・ A 社は北陸地区に本社を置く業歴の長い食品製造販売業者。高品質・高効率な製造体制を有していたが、販売先の減少・衰退により減収傾向。 ・ また後継者不在であり、M & A による会社の譲渡を検討され、5 年前に当行に相談があった。 < 譲受企業の概要 > ・ B 社は関東地区に本社を置く食品卸大手。M & A に積極的で、直近では人口減少、食の多様化による売上の落ち込み等を背景に同一県内の同業者との経営統合を発表。 ・ 低迷する食品卸売業での生き残りを目指し、安定的に高品質な食品を量産できる A 社の企業価値に関心を持たれていた。 【取組み内容】 ・ 当行は A 社に対して、M & A による事業承継を提案。A 社社長も M & A による事業承継を承諾した。 ・ 当行の広域店舗網を活用し、北陸地区のみならず、各地区から譲受候補先を選定したところ、B 社より、相乗効果が見込まれるため、A 社との M & A を検討したいとの申し出があった。 ・ その後、半年の交渉期間を経て、成約に至った。 【成果】 ・ A 社は高品質・高効率な製造体制を確立しているものの、販売先は小規模な先が多く、かつ営業人員も少なく、販売先・営業力に課題を抱えていた。 ・ B 社としては関東を中心に広域に販売ネットワークを築いているものの、従来の食品卸だけでは業績拡大が困難との認識であった。 ・ 本件により、A 社は B 社の強い営業力により自社製品の拡販が見込まれ、B 社としては A 社が保有している製造ノウハウをグループ企業に広めることが可能になる。 ・ 相乗効果の大きな組み合わせであり、今後の両社の更なる発展が期待できる案件となった。 以 上

銀行名	北陸銀行
タイトル	後継者不在企業に対するMBO
取組み内容	【背景・経緯】 < C社の概要 > 業歴の長い検査センサー製造業者であり、年商10億円、自己資本9億円。販売先は上場企業中心であり、株主は創業者の3人の子息。 < C社の悩み > ・ 創業者の子息である3人（70歳代）で協力して会社を経営。その3人に子息はいるものの、C社には在籍していない（子息には自社株を渡さない）。 ・ 今後、新商品販売や海外展開もあり、業況拡大が予想され、さらなる株価上昇が見込まれる。また、3人とも相続税の問題を抱えている。 ・ 過去に当社を買収したいという会社があったが、当社の魅力、将来性を理解するに至らなかった。 【取組み内容】 下記の要望を実現すべく、本支店一体となった提案を実施。 < 要望 > ・ 若く優秀な社員が多く在籍しており、彼らに事業を任せる。 ・ 社長が一定の経営権を保持しながら、事業を継続する。 ・ 評価額が高くなることが見込まれる自社株への対策。 ・ 個人の相続対策のため、株の譲渡代金は一括で現金で受け取る。 ・ 資金は、C社のCFから逆算して期間10年程で返済する。 < 本支店一体となった総合金融サービスの提供 > ・ 自社株評価を実施し、事業承継とM&Aのメリット、デメリットを説明。 ・ 経営陣による企業買収（MBO）種類株式（黄金株＝拒否権付株式）の活用を提案。 ・ 当行の関連会社であるほくほくキャピタル株式会社の利用（持株会社に出資）。 < 本部を活用した事業性評価による案件組成 > ・ 当行の産業調査部を活用し、検査センサー業界の分析・評価を実施。 ・ 当社事業の強みを把握したうえで、C社の要望に沿った持株会社方式スキームの案件組成を実施。 【成果】 ・ 事業承継問題を抱える先に対し、道筋を示すことで、取引先企業の不安を解消し、当行との取引関係の強化に繋がった。 以 上

銀行名	北陸銀行
タイトル	6次産業化ファンド出資事例 能登のワイナリーによるレストラン経営支援
取組み内容	【背景・経緯】 ・ D社は自社生産ぶどうを用いたワイン醸造・販売を主たる事業としている先。今後の事業展開として、ワイナリーに併設したレストランの経営を検討していた。 ・ ワイン生産は在庫資金負担が大きく、さらに追加でレストランの建設を行うには、資金力が乏しい状況であった。 【取組み内容】 ・ D社は、長期の安定した資金調達を希望しており、当行組成の『ほくりく 6次産業化ビジネス成長ファンド』による出資の申込があった。 ・ ファンドによる出資検討の際には、料理専門家による当社のワインの品評や、招聘する料理人との面談も重ねて、事業コンセプトの擦り合わせを綿密に実施。 ・ また、事業対象エリアの商圈調査も含め、事業計画作成のサポートも行った。 【成果】 ・ 出資決定後は、当行並びに、その他のファンド出資行の協力を得て、ワインの商談会や物産展への出展をサポートし、当社ワインの認知度向上、販路の拡大に協力。 ・ また、能登半島の景観の良い立地を生かして、旅行事業者との提携によるツアープランの作成も実施。 ・ 事業実施により、地元観光業界の活性化の一助となった。加えてレストランの従業員は地元から採用し、地域の雇用にも貢献することができた。 以 上

銀行名	北陸銀行
タイトル	金融経済教育への取り組み
取り組み内容	【動機】 学生や子供たちに金融・経済・お金のことに関する知識を幅広く習得する機会を提供することで、金融知識の普及に努める。 【取り組み内容】 1. 「エコノミクス甲子園富山大会・福井大会」の主催 (1) 高校生にクイズを楽しみながら金融・経済に関する知識を習得してもらうと共にお金との関わり方等を考えるきっかけを提供する。 (2) 参加者： ・富山大会：29 チーム 58 名 ・福井大会：29 チーム 57 名 2. 各支店での「14 歳の挑戦」「銀行見学」受入 小学生の銀行見学や、中学生の職場体験である「14 歳の挑戦」の受入を各支店で実施。 3. 包括連携協力協定締結大学との連携 (1) 富山大学・金沢大学での寄付講座開催 包括連携協力協定を締結している富山大学・金沢大学で寄付講座を開講。役職員を派遣し、金融という視点から地域社会や地域経済を考えるような講義を実施。 (2) 金沢大学・富山大学・富山県立大学合同中国・大連派遣研修の実施 中国・大連に学生（平成 27 年実績 18 名）を派遣することで、グローバル社会で活躍できる国際感覚を身に着けた人材の育成に努めている。 【取り組み成果】 エコノミクス甲子園や銀行見学等を開催することで、金融・経済を学ぶ機会を提供し、金融知力の普及に努めていく。 以 上   （写真はエコノミクス甲子園と銀行見学の様子）

銀行名	北陸銀行
タイトル	環境問題への取り組み
取り組み内容	【動機】 各地域で清掃活動や植樹活動に積極的に参加し、環境保全及び自然保護に努める。 【取り組み内容】 1．G7 環境相会合を前にした一斉清掃に参加 5 月に富山市で開催された G7 環境相会合を前にした一斉清掃に参加。環境相会合会場周辺や支店周辺など各地での清掃活動に行員約 290 名が参加。 2．植樹活動に参加 世界遺産・五箇山の合掌造りに使用される小茅の植栽、桜の植樹活動に行員約 90 名が参加。 3．環境評価融資「エコリードマスター」・「エコ私募債」の活用 環境に配慮した企業活動を行う取引先に対して金利等の条件を優遇することで、資金調達を支援し、地域社会の一員として環境保全に取り組んでいる 平成 27 年度実績：環境評価融資「エコリードマスター」 6 件 2,566 百万円 「エコ私募債」 31 件 2,840 百万円 【取り組み成果】 地域社会の一員として清掃活動等に取り組むことで、環境保全及び環境保全意識の向上に努めていく。 以 上   (写真は G7 環境相会合を前にした一斉清掃と植樹活動の様子)

銀行名	北陸銀行
タイトル	地域貢献に関する取り組み
取り組み内容	【動機】 経営理念である「地域共栄」の下、銀行業務以外にも、地域行事・ボランティア活動等への参加を通して地域貢献に寄与する。 【取り組み内容】 1．富山マラソン・金沢マラソン開催へのボランティア参加 昨年秋に開催された富山マラソンと金沢マラソンに、運営スタッフとして行員100名以上が給水所やゴール会場での完走証発行等のボランティアに参加。 2．富山駅・高岡駅・魚津駅での合格祈願祭開催 受験生等の合格を祈願し、毎年1月に富山駅・高岡駅・魚津駅で合格祈願祭を開催。会場では、機関車のスリップを防ぐために使用する砂を利用したお守り「すべらサンド」と合格祈願湯を配布し、受験生の合格を祈願した。 3．各支店での地域行事参加 各地域で開催される地域行事に、各支店単位で参加し、地域貢献に寄与。 【取り組み成果】 行員一人一人が地域貢献への取り組みを通じて、経営理念である「地域共栄」の実現に努めている。 以 上   （写真は富山マラソンでのボランティア参加と合格祈願祭の様子）